

足のうらで考える

ふれない意識をもつ 渡辺 謙
心を司令塔にし、足のウラで考え行動する

永田 円了



渡辺 謙

渡辺謙のエネルギーが、ハリウッドスターへの道を切り開く
ラストサムライでは、主演のトムクルーズを小さく見せるほどの迫力演技
その後、世界の渡辺謙になったにも拘らず、地味な映画「明日の記憶」をプロデュースする

初めから目標を定めなくて、自分が自分として彷徨う
あえてビジョンをもたない、その方が出会いのチャンスが増える

表層の記憶がはげ落ちた後、一体何が残るのか

事が起こったとき、妻の枝実子に最後まで愛情をもって夫
をサポートしようと決断させたものは何だったのか

エックハート氏語る



- 友人の母親がアルツハイマーにかかった
- 記憶が抜け落ちていくにつれ、それまで一度も味わったことのない幸せを感じたという
- 身体がマインド(頭)の牢獄から彼女を救い出したのです
- 身体(心)は、それくらい知性が備わっているのです



ある研究が米国のとある修道院で行われました

- そこに住む尼僧さんの何%かは、アルツハイマー病にかかったというのです
- その原因を探る中、一つの興味深い事実に辿りつきました
- それは、尼僧さんたちが若い頃、この修道院に住むために申込書を書いた、そのときの作文にいきついたのです
- 作文には二つのパターンがありました
- 一つは、いわゆる優等生の作文です、もう一方は、起承転結が滅茶苦茶でも、心模様がにじみてるような書き方の作文でした。

では一体どちらの作文を書くひとが、よりアルツハイマーにかかる率が高かったのでしょうか

- 答えは、優等生の作文を書く人のほうがよりアルツハイマーにかかったというのです
- 心を素通りして、頭ばかりで考えた結果、心が頭のスイッチをオフにしたのです

